【資料１】

# 第２回利尻山登山利用検討会　議事概要

■日時　　平成 20 年 12 月 3 日（水）　9:00～12:00

■場所　　利尻富士町役場　3 階和室

■議事概要

1. 第 1 回検討会の検討内容について

- 事務局より資料説明（資料 1 及び資料 2）

2. 利尻山の登山利用にかかる課題について

- 事務局より資料説明（資料 3～資料 7）
- 課題の洗い出し
  - 約 15 分間、検討員各自で利尻山や利尻山登山に関する課題を洗い出し、付箋に記入した。
- 課題の整理
  - 各検討員が付箋に記入した課題やこれまでに実施したヒアリング結果やアンケート調査結果から抽出した課題を「登山道」、「登山者」、「地域」、「その他」の 4 つに整理した。

3. 課題への対策及び取組について

- 整理された「登山道」、「登山者」、「地域」の 3 つの課題をテーマに、グループに分かれて対策及び取り組みについて約 45 分間議論した後、各グループの検討内容を発表した（別紙）。

（座　長）

- 今回は課題の抽出はできたもののそれ以外の部分まで検討が進められていないところもあるが、今回の内容を次回の検討材料としていきたい。

（検討員）

- 観光や環境に関わる側面を含め、利尻島全体の中での利尻山の位置づけを考えていくことの必要性をより強く感じた。いろいろな課題はあると思うが、観光の中での登山をどのように位置づけるかを考えることは大事なことである。
- 沖縄や小笠原で「持続可能な観光地づくり」についての議論に参加している。沖縄では、観光客が増え続けており、観光資源のオーバーユースが心配されている。観光客をこのまま受け入れるべきかどうかや、地域や資源が持続的に維持できるように、「エコツーリズム推進法」を利用して地域指定し資源を保全することも議論されている。
- 利尻島でもいずれこのような方法を取り入れることも考えながら、観光を伸ばしていく 1 つの手段として登山を考えなければならないと感じている。

（検討員）

- 何かを解決しようと考える場合、方策として法律のこと、金銭的なことといったものがあるが、やはり人に関することを議論していかなければならない。
- 人のつながりといっても、現時点での水平的なつながりだけでなく、次の世代も含めた縦のつながりも考えていかなければならない時期になっているように感じる。

（座　長）

- 「人のつながり」、「利尻島全体の中での利尻山の位置づけ」というものが議論のキーワードになってきたと言える。

4. その他

● 今後の本検討会のあり方について

（座　長）

- 今後、利尻島全体の中で「利尻山登山利用のあり方」という大きなことを協議していくにあたり、登山利用者の視点があまり含まれていないことなども含め、このメンバーだけでいいのか、他に入っていいただくべき人がいないか、議論の場はこの検討会でいいのか、検討する必要がある。みなさんのご意見をいただきたいが、本日は時間がもうないので、別の場でお聞きすることにしたい。

● 検討会資料・議事概要の公表・周知について

（事務局）

- 検討会関係者以外にもこのような検討が行われていることや検討内容をお知らせしたいと考え、検討会資料及び議事概要を環境省ホームページ上で公開することを考えている。ホームページ上での情報公開については、山岳関係者に対してその旨お知らせする予定である。
- この他、情報を発信すると効果的と思われる対象についてご意見をいただきたい。

（検討員）

- インターネットでの情報公開だけでなく、町の広報紙などにも情報を閲覧できる場所などを掲載したほうがよい。

（検討員）

- インターネットだけでは情報を得ることができない場合も考えられるので、役場などで紙媒体の資料を閲覧できるようにしておくべき。
- また、資料全部に目を通すことは大変なので、検討会配布資料だけでなく、検討会の概要版があるとよい。

（検討員）

- 役場で検討会資料等を閲覧できるようにすることは可能である。

● 今後のスケジュールについて

- 次回検討会は 1 月下旬から 2 月上旬の開催を予定。（資料 8）

（別紙 1）

## 『登山道』に関する課題

- 荒廃の最初の原因は人だが、今は雨・雪でも進行する
- 登山者による人為的な登山道の荒廃
- スコリアを崩さずに登れる登山者はいない
- 山頂の亀裂
- 登山道側壁の浸食によるオーバーハング化・植生の脱落
- 3mスリットいつまで通れるか？
- 施工後の維持の難しさ
- 整備が難しい
- 整備・維持に多大な費用・労力がかかりキリがない
- 地域性から他の山岳地のような取り組みができない
- 予防的対策が少ない
- 人為ばかりでなく自然でもとても崩れやすい山であるということ
- 登山道の荒廃
- 9合目以下でも深い溝や浮き石が増加している
- 利尻らしい生物相が登山道荒廃により失われていく危険あり
- 親不知子不知風で落石が起きる
- 三眺山から先が安全面で心配

## 『登山者』に関する課題

### 登山者が

- 雨天時でも登山者は山頂を目指す
- 小屋泊を前提にしてくる人もけっこういる
- 情報を提供しても活用しようとしない登山者（？）が多い
- 登山口に注意書きがあったのに軽装の登山者がいた
- ごみ等を持ち帰らない登山者
- 魅力的な山容に釣られる安易な登山者
- 安易な登山意識情報を取ってない、水の量等
- 登山者が多いために起きる現象だが、その認知度が低い
- 山の情報を知らない人が多い
- 安全で楽しい登山のための基礎知識が不足
- 登山道の現状について登山者の認識が不足している
- 勘違いしている登山者が多い
- 親不知子不知は大崩壊地であって、経験の浅い登山者のトラバースは極めて危険
- 思いつき登山が多い
- 子連れ登山・軽装登山は危険かつ登山道にも悪影響
- 安易・技術不足・警戒心が乏しいなど、山中で会ったほとんどの人に問題があった
- 登山者の意識の低さ（登山・利尻山）
- 登山者（利用者）の声が見えない

### 登山者に

- 利尻ルールが認識されているか疑問
- 利尻固有の問題・事情がよその人に伝わっていない、島からも伝えられていない
- 汚れた靴、服装、外来種公共機関、船、宿、ハイヤー、バス等
- 利用者の「フルイ」システム
- 登らせない視点を取り入れる
- 組織的にストックキャップの指導（宿泊組合）数が少ない
- 利尻山以外の歩けるコースの広報が不足
- 装備不足の登山者による登山を未然に防げない
- 登山計画書の提出をしっかりさせる
- 登山届の提出方法・提出状況

## 『地域』に関する課題

- 利尻山に関心をもつ地元人材の不足
- 島民の山に対する関心が薄い
- 利尻山以外の魅力の売り出しが少ない
- 利尻山に対する地元の声が見えてこない
- 島の人が他の山との比較ができない（知識不足）
- 人づくりの場がない
- 利尻山のあり方を検討する場が地元に安定的に確保されていない
- 自然が中心の観光業で成り立っているのに、中心の山に登れなくなってしまうと困る
- 観光事業者に山以外のエコツーリズムなどの考え方が伝わっているか？
- 「最北」の「離島」という地理から島外からの支援が得難い
- リピーターが少なく、利尻ファンが育ちにくい
- 登山道整備をしていくための人材や組織が不足している
- 登山道整備の人材が少ない（先細り）
- 様々な対策が個人の取り組みを基盤にしているため継続性に不安
- 登山道の安全管理管理者の責任・権限の明確化
- 事故があった場合の管理責任
- 携帯トイレの協力金で余った分を整備費へ
- 携帯トイレ回収費用の登山者による負担

## その他の課題

### 情報提供のしかた

- 登山道や天候に関する情報をインターネット配信した場合の責任の所在
- ビジターセンターがない
- 基本的な登山マナーの統一
- 情報が浸透していない
- 登山口での情報提供の不足
- フェリー内でのアナウンスによる情報提供
- 情報の不統一
- 山頂付近の状態が麓では想像しにくい
- メディア内での扱い方の違い

### 基礎的データ

- 研究が現場に生かされるシステムになっているか
- 守るべき自然に対する具体的なデータがない（場所、種 etc.）
- 浸食量に関するデータの不足

### 山のイメージ

- 混んでいる利尻山は利尻山らしくない
- 「せっかく来たんだからちょっと登ってみよう」と思わせてしまう魅力的な山容

- 人事異動で話が振り出しに戻る
- 整備に合わせた利用の検討

**検討会で出た課題**

**ヒアリング結果・アンケート結果から抽出した課題**

利尻山の登山利用にかかる課題の整理

## 1班：登山道

| 課　　題 | 対　策　・　取　り　組　み　案 | 役　割　分　担 | 実　施　時　の　課　題 |
|---|---|---|---|
| **利尻山における整備の難しさ**<br>• 費用がかかりすぎる<br>• ボランティアが集まりにくい<br>• 労力がかかる<br>• 施工後の維持の難しさ<br>• 地域性から他の山岳地のような取組ができない | • 外から（島外）人材を確保する<br>• ボランティアを育てる<br>• ボランティア等が安く泊まれるように宿泊業にも協力を求める<br>• 維持管理の費用を確保する | • 人材確保は利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、協議会）が中心 | • 人材の確保が難しい |
| **山頂の亀裂**<br>• 崩壊自体は止められない<br>• 3mスリットはいつまで通れるか（近いうちに崩れるかもしれない、時間的に差し迫った問題）<br>• 登山道側壁の浸食によるオーバーハング化や植生の脱落 | • 基準づくり<br>• 利用による影響があるならばそれを回避する対策<br>• モニタリング<br>• 崩壊の可能性ありとの情報提供<br>• 通行止め<br>• 山頂の植物などの調査（固有種など） | • 基準づくりは協議会<br>• 話し合いの場は協議会<br>• モニタリングは行政（協議会） | • 通行止めの基準 |
| **利用による登山道の荒廃**<br>• スコリアを崩さずに登れる登山者はいない<br>• 登山者による人為的登山道の荒廃<br>• 荒廃の最初の原因は人だが、今は雨・雪でも進行する | • 時間・人数による利用制限のためのシステム作り<br>• 夏山（期間を決める）登山の推進<br>• 開山日・閉山日といった利用期間の設定<br>• 広報による段階的な導入（8・9月の利用）<br>• 雨風時の登山についての統一のルール作り<br>• 登山口での電光掲示板による通行止めのお知らせ | • ルールづくりは協議会 | • 登山できない場合の代わりになるものを提示できればよい |

整理されなかった課題

●整備は登りやすさではなく、利尻山自体の保全を第一とする　●利尻らしい生物相が登山道荒廃により失われていく危険あり　●9合目以下でも深い溝や浮き石が増加している

●三眺山から先が安全面で心配　●親不知子不知風で落石が起きる　●予防的対策が少ない　●人為ばかりでなく自然でもとても崩れやすい山であるということ

**2班：登山者**

| 課題 | 対策・取り組み案 | 役割分担 | 実施時の課題 |
|---|---|---|---|
| **思いつき登山者が多い** | • パトロールの常駐<br>• 持ち物やレベルの自己判断を促す<br>• フェリーでの案内<br>• ガイド紹介システムの確立<br>• 宿泊業者への定期的勉強会<br>• 避難所の有料化<br>• 宿泊施設での情報提供や装備の貸し出し<br>• 五・七・五のキャッチフレーズ（島民の合言葉のようなもの）を作り、自然に頭に入るようなルールを作る | | • ソフト対策だけでは限界がある<br>• それでも登るという人を止められるか<br>• 情報提供を十分にして自己責任を周知しても訴訟を免れない場合もある |
| **登山経験者の利尻山の固有問題に対する認識不足** | • 具体的な事故事例を積極的に公表する | | |
| **各人のレベルにあった情報の発信・伝達不足** | • 認識度の確認システムをつくる（チェックシートのようなもの）<br>• 各宿泊施設でその人に合ったアドバイスをする<br>• 旅行会社から利尻に関する正確な情報を伝えてもらう | • 協議会<br>• 利尻山登山協議会、さらには利尻島エコツーリズム協議会を設立 | • 各人のレベルの把握が難しい |
| **利尻山固有の問題に関する情報の発信** | • 各ガイドブックやメディアで山の問題を正確に取り上げてもらう<br>• 山岳雑誌などのメディアへの強い情報提供・啓発<br>• 東京や札幌、全国の山岳組織に向けた情報発信<br>• 情報提供経路や内容の統一<br>• 利尻山固有のデータを整理し、他の山との違いを明確にした上で情報をオープンにする | • 利尻固有の問題についての説明は地元の人が行うことで説得力が増す<br>• 研究者・ガイド組織とのネットワーク | |
| **登山者のニーズ把握の不足** | • モニター調査<br>• 定期的なアンケート調査の継続<br>• 登山口や宿泊施設に目安箱を置く | • 現段階では協議会だが、これを専門機関化する | |
| **登山者を管理するしくみがない** | • ビジターセンターでの登山者・計画書のチェック<br>• 登山届提出先の明確化<br>• 登山届提出の徹底<br>• 登山の事前予約の条例化<br>• 利用者を制限する<br>• 登らせないという視点も取り入れる<br>• 持続的な地元関係者の意思決定経路確立 | • 利尻山管理を担う組織を作る<br>• ボランティア・NGO・山岳会によるサポートネットワークを作る | |

全ての項目に共通する「実施時の課題」

●人材不足　●育成機関と機会の不足　●地元の費用不足

**3班：地域**

| 課　　題 | 対　策　・　取　り　組　み　案 | 役　割　分　担 | 実　施　時　の　課　題 |
|---|---|---|---|
| • 次世代の育成<br>• 島民が他の山との比較が出来ない<br>• 島民の山に対する関心が薄い<br>• 島民が山をどうしていきたいかという明確なビジョンを持っていない<br>• 観光業者に山以外のエコツーリズムといった考えが浸透しているのか<br>• 人づくりの場の不足 | • 利尻山が取り巻く現状について学校教育に取り入れる<br>• 登山前にレクチャー | • 教育委員会・学校関係<br>• 山を知っている人・団体 | • 教育委員会から協議会へ依頼があるが人材が不足している |
| • 登山道整備の人材不足<br>• 登山道整備の組織不足 | | | |
| • 地域振興を考慮に入れた保全が必要<br>• 登山者が増えることによる経済効果<br>• 自然が中心の観光業で成り立っているため登山ができないのは困る | • 環境保全活動が産業化できないか⇒新たな産業の創出 | | |
| • 環境保全に対する地元負担が大きい | • 携帯トイレの改修費用を登山者が負担<br>• 携帯トイレでの協力金を1,000円にし、余剰金を整備費用にする<br>• （長期的には）携帯トイレの携帯を義務化 | • 協議会 | • 人材（人手）不足<br>• お金の管理が難しい |
| • 利尻山以外の魅力の売り出しが少ない | • 島内ガイドの不足 | | • ガイドで生計を立てられるのか |

整理されなかった課題

●リピーターが少なく利尻ファンが育ちにくい　●人事異動で話が振り出しに戻る　●個人レベルの取り組みが多く継続性に不安がある　●整備にあわせて利用を検討
●登山者の意見を聞く　●思いつき登山者を止めるすべがない　●事故があった場合の管理責任　●管理の権限の明確化　●最北の離島であり島外からの支援が難しい